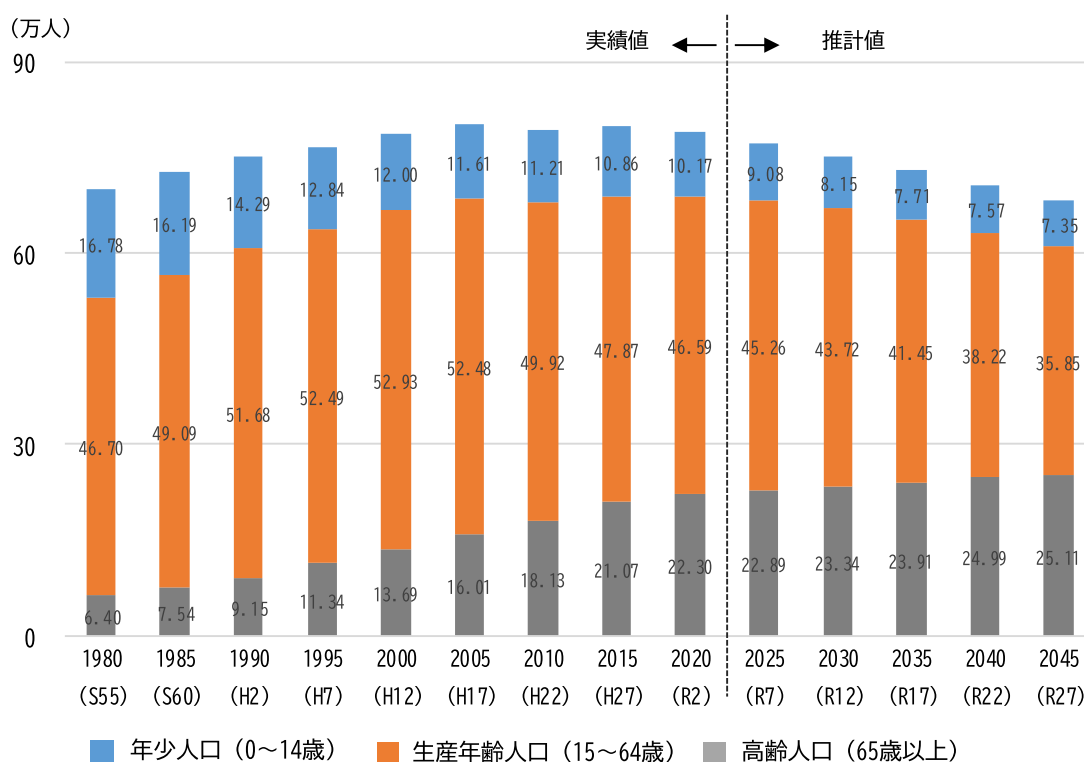


第2章 都市構造等の変化の状況

1 人口動向

(1) 総人口、人口構造

総人口は、2015（平成27）年に79.8万人となったのちに減少しており、2045（令和27）年には68.3万人になると予測されています。年少人口は年々減少し、2045（令和27）年には総人口の約7%（7.35万人）、生産年齢人口については2000（平成12）年をピークに減少し、2045年には35.8万人となります。一方、高齢人口は年々増加し、2045（令和27）年には総人口の3人に1人（25.11万人）が高齢者となります。



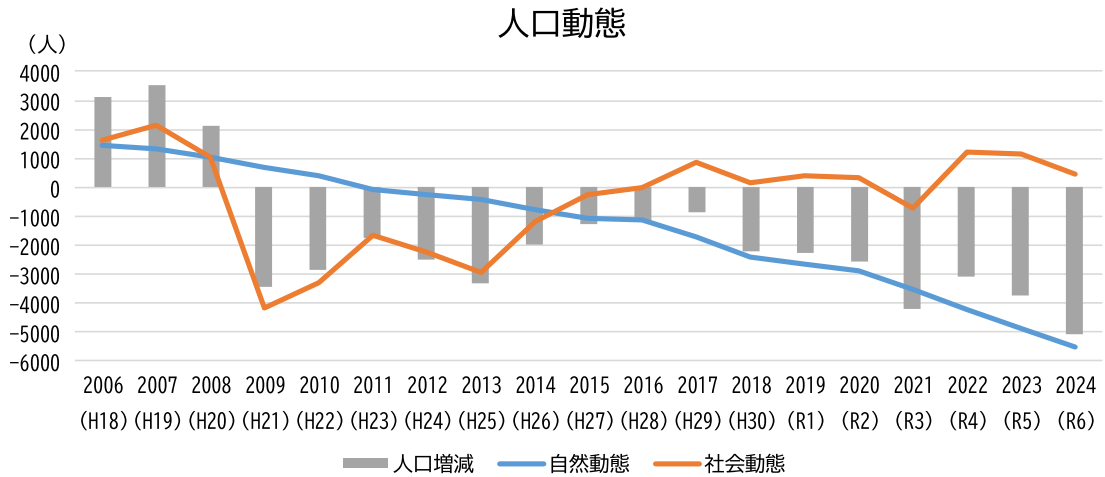
	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)
総人口 (万人)	69.9	72.8	75.1	76.7	78.6	80.1	79.3	79.8	79.1	77.2	75.2	73.1	70.8	68.3
年少人口 (万人) (0~14歳)	16.8	16.2	14.3	12.8	12.0	11.6	11.2	10.9	10.2	9.1	8.2	7.7	7.6	7.3
年少人口割合 (0~14歳)	24.0%	22.2%	19.0%	16.7%	15.3%	14.5%	14.1%	13.6%	12.9%	11.8%	10.8%	10.5%	10.7%	10.8%
生産年齢人口 (万人) (15~64歳)	46.7	49.1	51.7	52.5	52.9	52.5	49.9	47.9	46.6	45.3	43.7	41.5	38.2	35.8
生産年齢人口割合 (15~64歳)	66.8%	67.4%	68.8%	68.5%	67.3%	65.5%	63.0%	60.0%	58.9%	58.6%	58.1%	56.7%	54.0%	52.5%
高齢人口 (万人) (65歳以上)	6.4	7.5	9.2	11.3	13.7	16.0	18.1	21.1	22.3	22.9	23.3	23.9	25.0	25.1
高齢人口割合 (65歳以上)	9.2%	10.4%	12.2%	14.8%	17.4%	20.0%	22.9%	26.4%	28.2%	29.6%	31.0%	32.7%	35.3%	36.8%

資料：2020年までは国勢調査、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所資料

人口の推移

(2) 人口動態（社会動態、自然動態）

人口動態は、2009（平成 21）年以降、増加より減少の方が大きく、自然動態については2011（平成 23）年以降減少しています。社会動態は一部増加の年もありますが、1,000 人程度です。



	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)
人口推計 (人)	807,922	811,431	813,542	810,090	800,391	798,638	796,163	792,835	790,866
人口増減 (人)	3,129	3,509	2,111	-3,452	-2,874	-1,753	-2,475	-3,328	-1,969
自然動態 (人)	1,479	1,332	1,057	691	416	-90	-219	-396	-756
社会動態 (人)	1,650	2,177	1,054	-4,143	-3,290	-1,663	-2,256	-2,932	-1,213

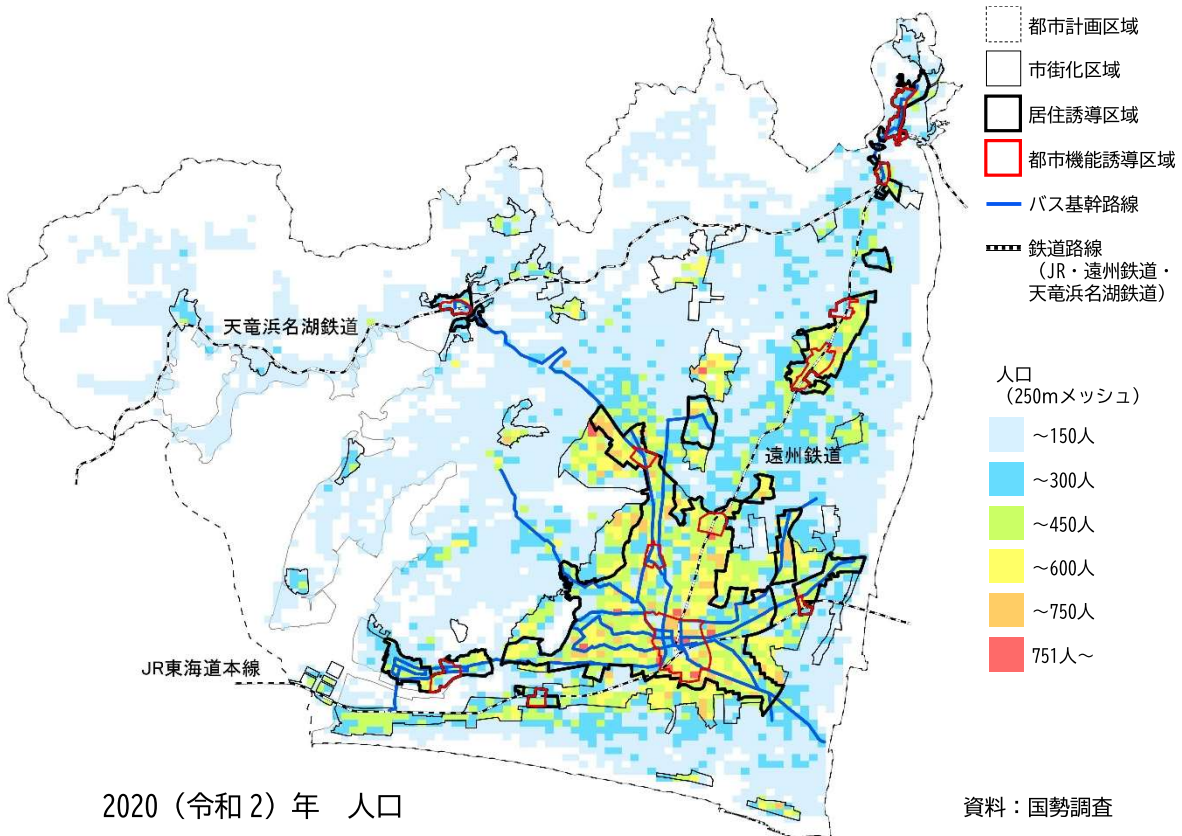
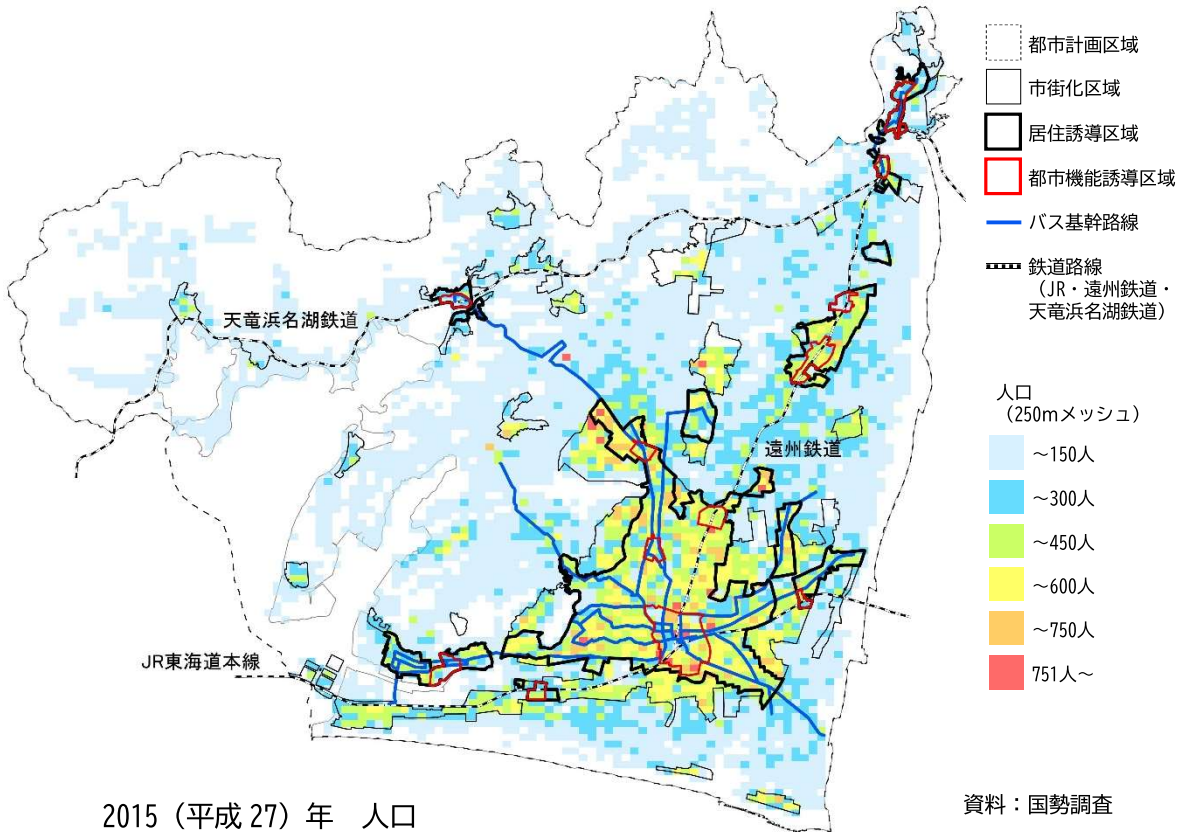
	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
人口推計 (人)	797,942	796,808	795,928	793,695	791,442	789,924	785,729	782,662	778,943	773,882
人口増減 (人)	-1,290	-1,134	-880	-2,233	-2,253	-2,561	-4,195	-3,067	-3,719	-5,061
自然動態 (人)	-1,042	-1,131	-1,717	-2,388	-2,656	-2,890	-3,504	-4,254	-4,889	-5,528
社会動態 (人)	-248	-3	837	155	403	329	-691	1,187	1,170	467

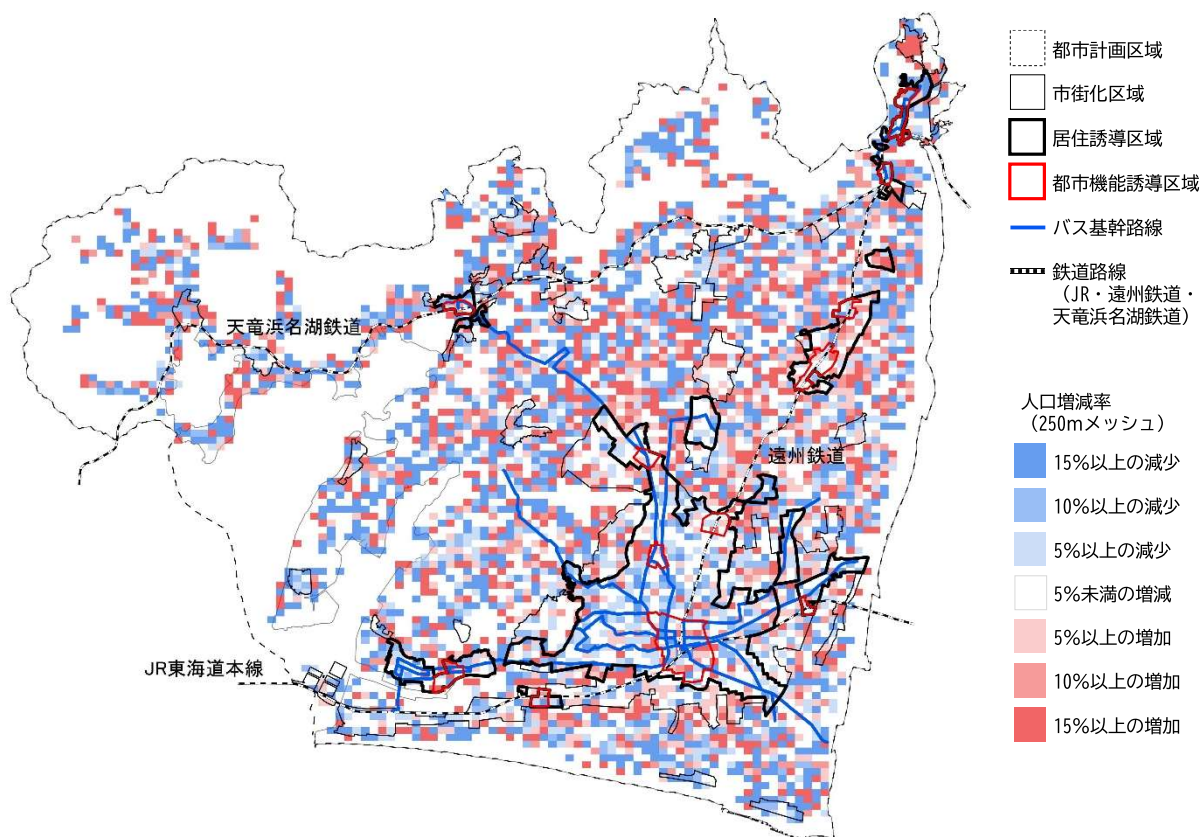
※人口推計は次年の1月1日時点

資料：浜松市推計人口表

人口動態

(3) 人口分布、人口分布増減





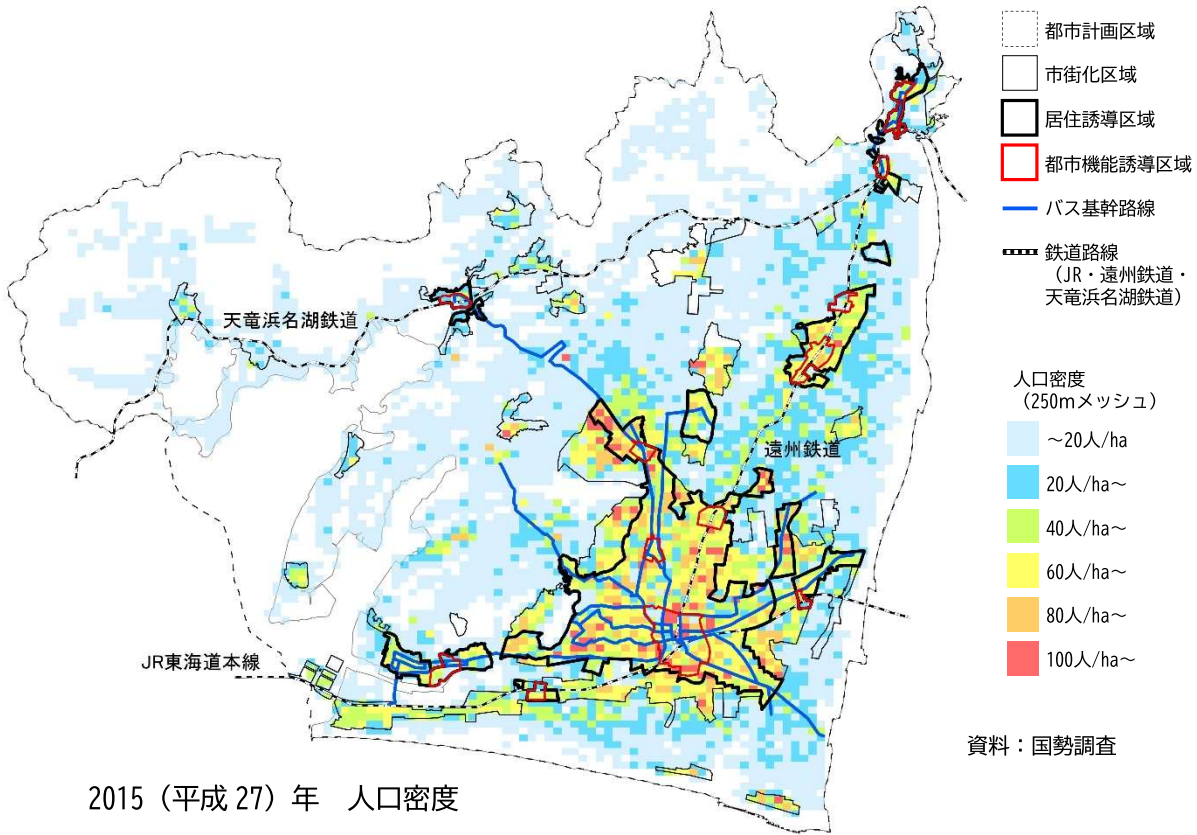
2015年-2020年 人口増減率

資料：国勢調査

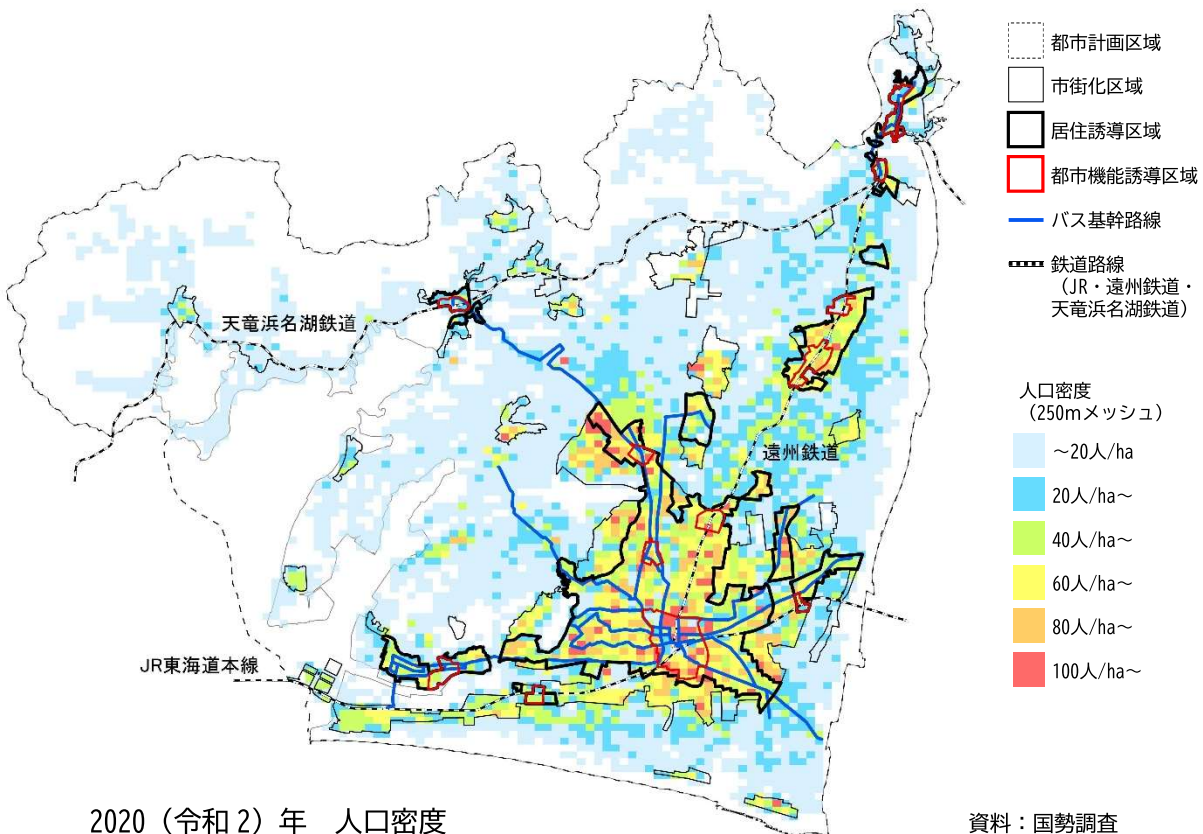
人口分布は、市街化区域で250mメッシュあたり300~600人、市街化調整区域の市街地の縁辺では150~300人、その他の市街化調整区域では150人以下となっています。

人口増減率をみると、浜松駅を中心とした、都心の居住誘導区域は人口が減少傾向です。市街化調整区域では増加傾向が見られます。

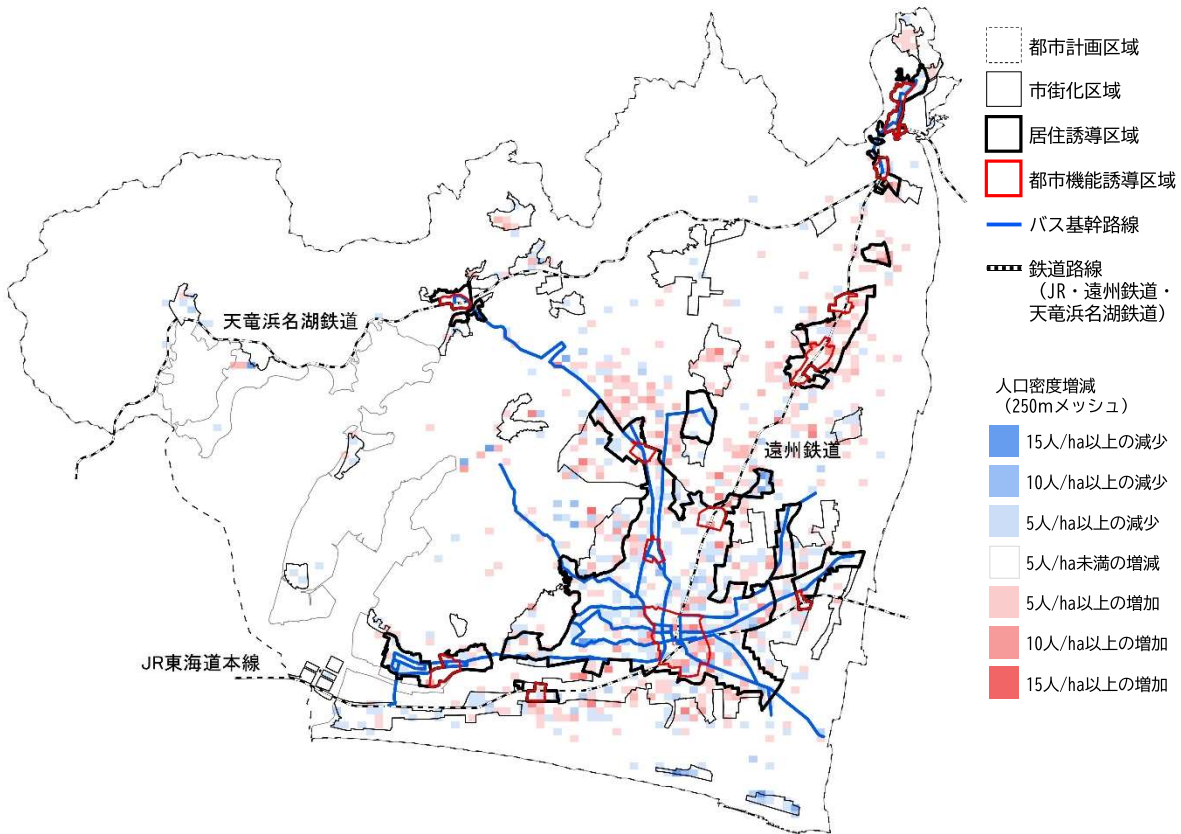
(4) 人口密度、人口密度増減



資料：国勢調査



資料：国勢調査



2015年-2020年 人口密度増減

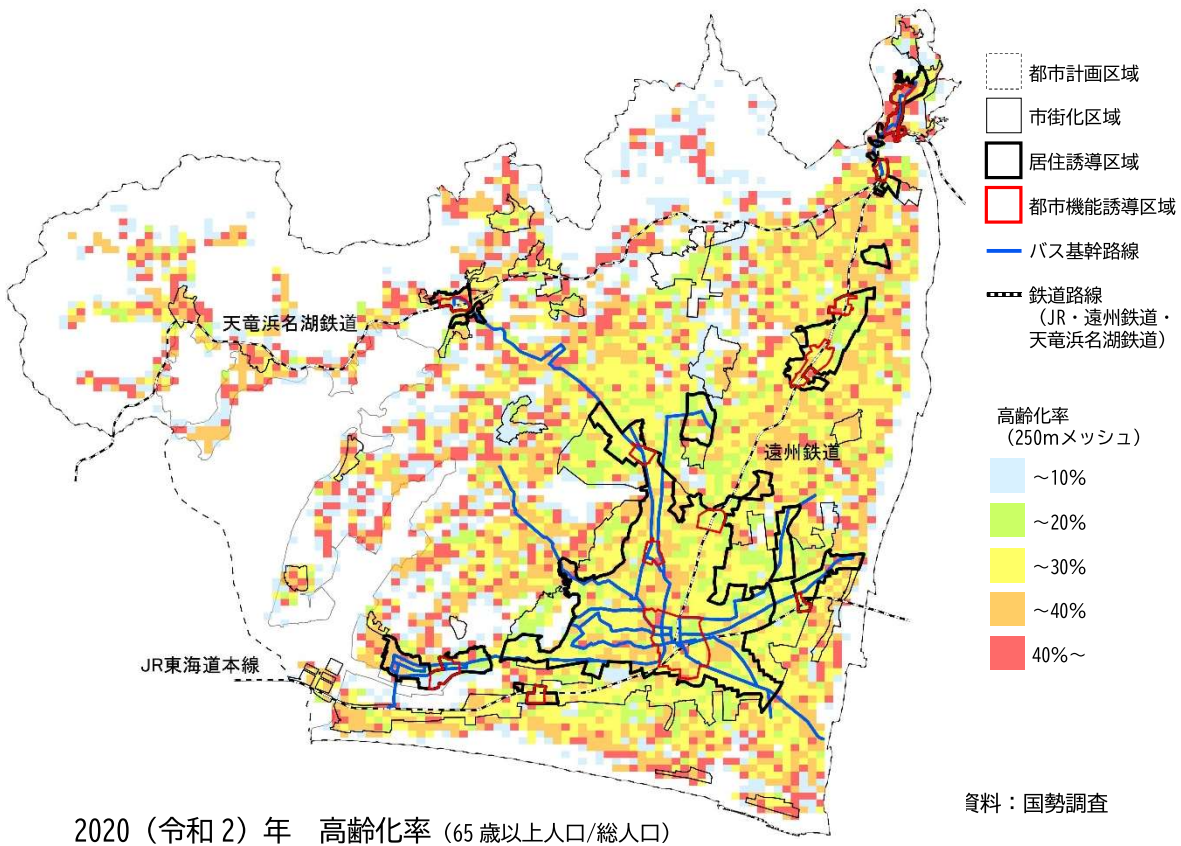
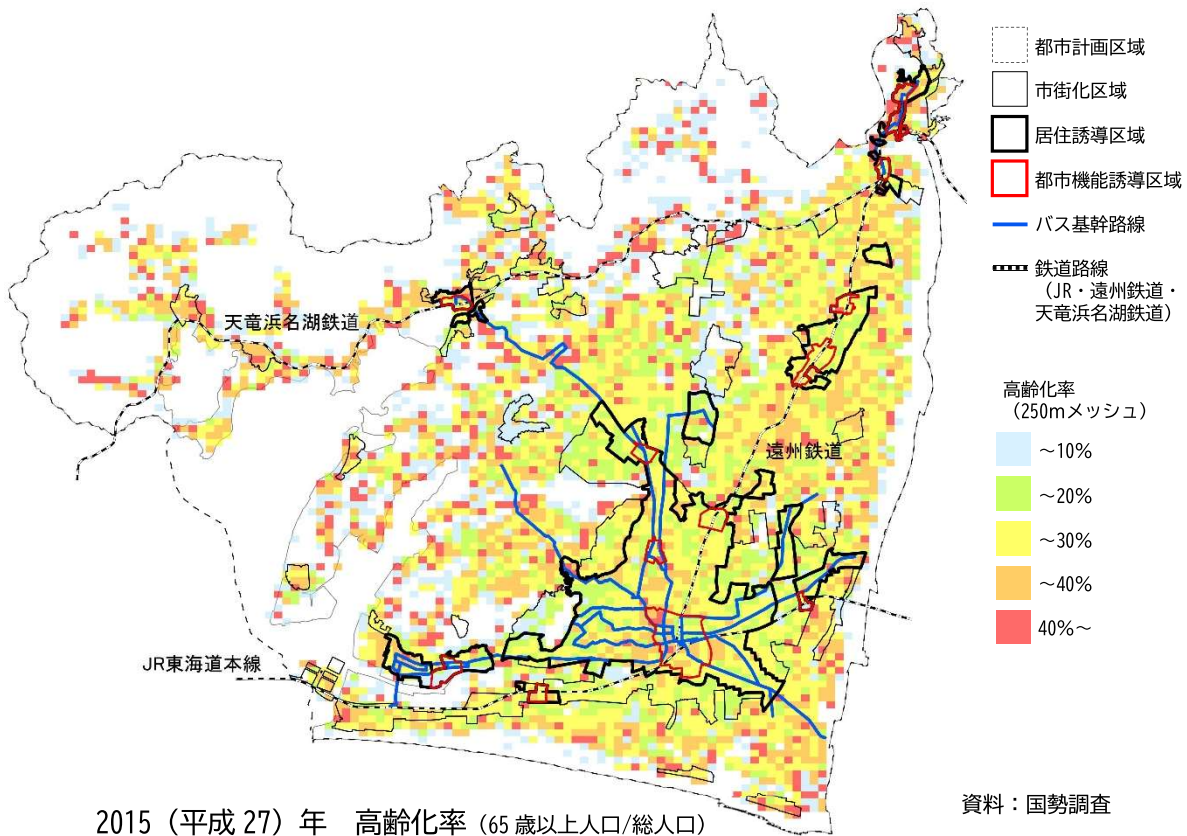
資料：国勢調査

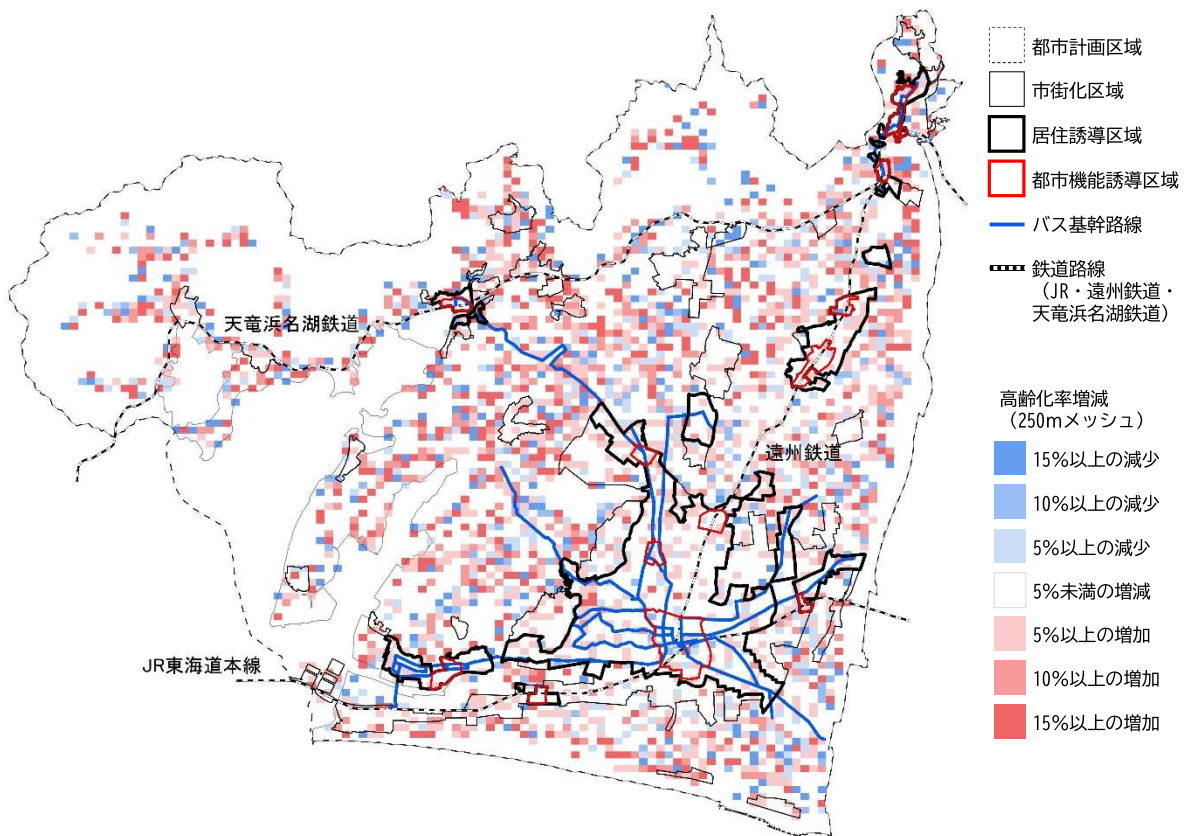
人口密度は2015年/2020年ともに市街化区域内で高く、都心などで100人/ha以上がみられます。市街化調整区域では20~40人/haであり、遠州鉄道沿線では40~60人/haとなっています。

人口密度増減は、都市機能誘導区域の浜松駅周辺では5人/ha以上の増加、場所によっては15人/ha以上の増加がみられますが、周辺の居住誘導区域については増加している箇所はあるものの5人/ha以上の減少が多くみられます。

市街化調整区域は10人/ha以上の増加や15人/ha以上の増加がみられ、人口密度が増加していることが分かります。

(5) 高齢化率、高齢化率増減





2015年-2020年 高齢化率増減 (65歳以上人口/総人口)

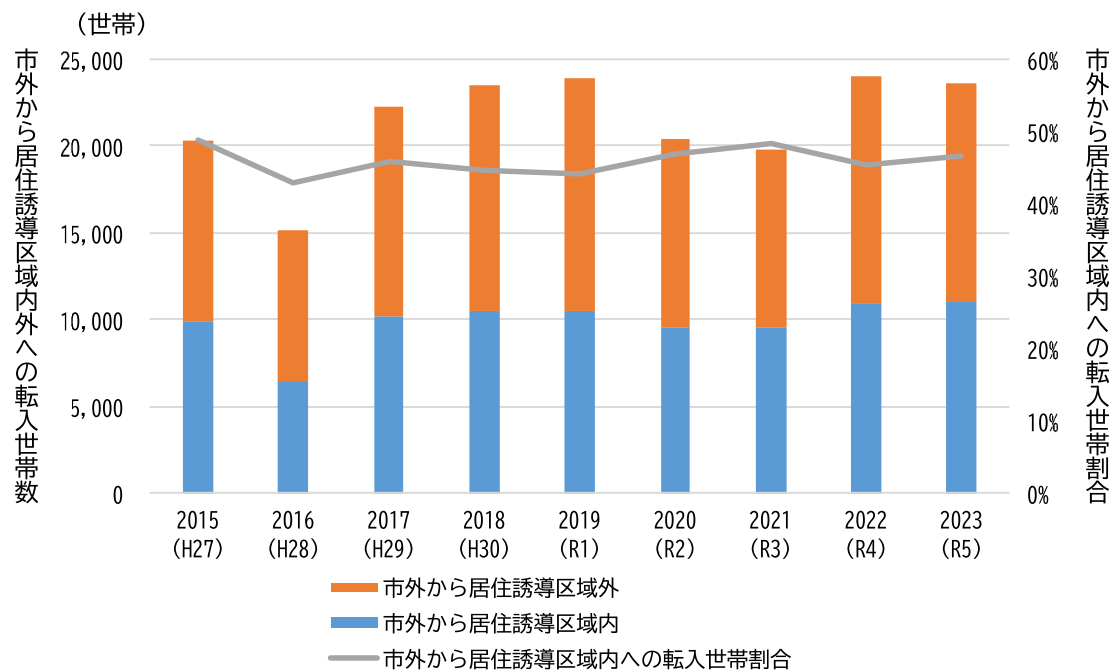
資料：国勢調査

高齢化率について、2015年/2020年ともに高齢化率20%以上が多く、2020(令和2)年は30~40%と40%以上の箇所が増加しています。高齢化率増減でも、10%以上の増加や15%以上の増加が多くみられます。一方、都心やその周辺の居住誘導区域ではあまり増減がみられません。

(6) 人口移動

○市外から居住誘導区域内外への転入

市外からの転入世帯のうち、居住誘導区域内へ転入した世帯の割合は2023（令和5）年時点で46.7%となっています。居住誘導区域内より居住誘導区域外のほうが転入世帯が多いことが分かります。



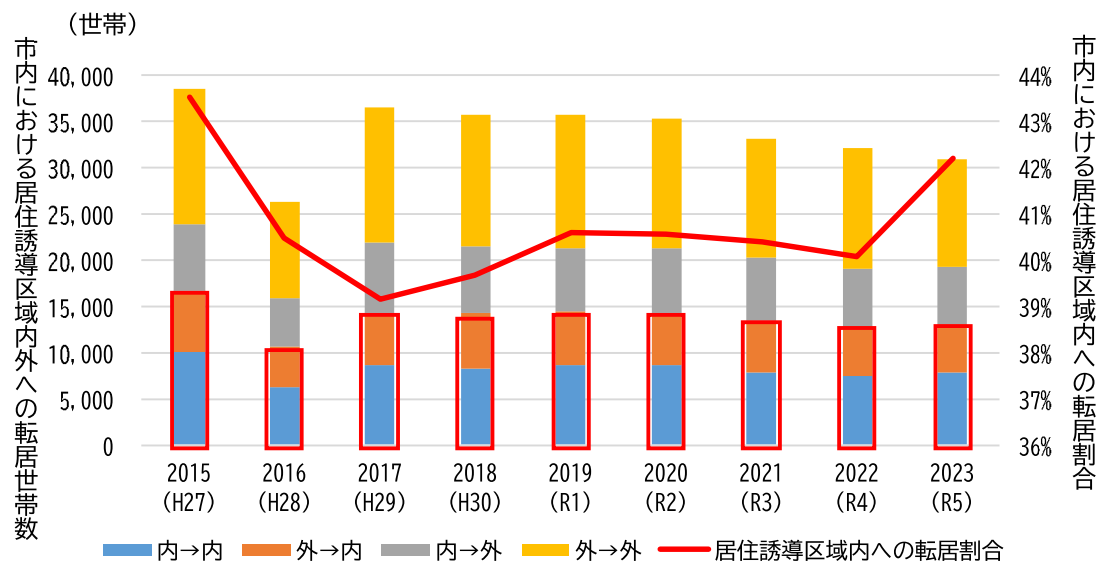
	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
市外から居住誘導区域内 (世帯)	9,894	6,487	10,185	10,488	10,532	9,530	9,584	10,866	11,032
市外から居住誘導区域外 (世帯)	10,394	8,654	12,059	13,018	13,335	10,855	10,194	13,105	12,590
市外から居住誘導区域内への転入世帯割合	48.8%	42.8%	45.8%	44.6%	44.1%	46.8%	48.5%	45.3%	46.7%

資料：住民基本台帳

市外から居住誘導区域内外への転入

○市内から居住誘導区域内外への転居

市内からの転居世帯のうち、居住誘導区域内へ転居した世帯の割合は2023（令和5）年時点で42.2%となっています。



	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
内→内 (世帯)	10,024	6,317	8,577	8,297	8,562	8,556	7,836	7,400	7,836
外→内 (世帯)	6,710	4,296	5,709	5,899	5,882	5,745	5,565	5,422	5,219
内→外 (世帯)	7,093	5,239	7,535	7,218	6,856	7,007	6,826	6,330	6,168
外→外 (世帯)	14,637	10,366	14,669	14,370	14,295	13,953	12,936	12,835	11,719
居住誘導区域内への転居割合	43.5%	40.5%	39.2%	39.7%	40.6%	40.6%	40.4%	40.1%	42.2%

資料：住民基本台帳

市内から居住誘導区域内外への転居

※内：居住誘導区域内

外：居住誘導区域外